

## TOKYO X-Association 総会、新会長に遠藤剛氏を選任

TOKYO X-Association(中村敏章会長=上写真)は20日、第27回令和8年総会を東京都八王子市の京王プラザホテル八王子で開催。令和7年度事業報告、8年事業計画(案)など、上程全議案を原案通り承認した。また、役員選任では、中村会長が退任し、新会長に遠藤剛氏(株遠藤商店、下写真)を選任。その他、新任の理事として八重澤岳氏(株人形町今半)を選任した。

総会では、初めに中村会長が「“Association”とは、集まった人がそれぞれ同じ目的を持ち、計画的に行動する団体のこと。世の中はあらゆるものが節約志向となっているが、われわれの目的はお客さまに喜んでいただくためのTOKYO Xの価値向上だ。おいしいとっていただける品質安定と顧客拡大、メディアを活用してTOKYO Xの露出度を上げ、一度で良いから食べてみたいという潜在的なお客さまを増やし、その人たちに取扱店舗を案内して購入につなげていく。また、生産者組合と情報を密に交換し、互いの課題を解決しながら、常に店頭で陳列可能な頭数を育てていただくため、われわれができることを議論し、お客さま、生産者、そして社会の三方が喜ぶ環境を構築していく」と述べた。来賓からは東京都議会の伊藤大輔議員(都民ファーストの会)、東京都産業労働局農林水産部農業振興課の小山充畜産振興担当統括課長代理がそれぞれ祝辞を述べた。

7年度は、恒例の東京都主催「食育フェア」などのイベントに参加した他、リブランディング事業の一環として、JA全農東京で開催された講演会に参加。静岡県立大学経営情報学部経営情報学科の岩崎邦彦教授による「ブランド力と価値創造～TOKYO Xのブランド価値をさらに高めるために～」と題した講演が行われた。また、初開催となる「第1回とんかつベス豚グランプリ」に出場。審査員特別賞を受賞した。

8年度も引き続きTOKYO Xのブランド価値のさらなる向上および消費者認知の拡大、持続可能な流通体制の確立を目指す。①販促に関する事業では、販売店との連携を深め、より一般消費者につながりやすい販促を実施。また、SNSを活用した販促の継続・強化を図る他、イベントと連動した販促企画を実施する。

②生産者および関係各所との交流・連携では、定期的な情報共有の継続や生産者・流通・販売の交流機会の創出を図る。③知名度向上に向けたイベント事業では、東京都を中心とした地域活動への参加・協賛、販売店主催の広報イベントへの協賛活動にも注力。④ブランド強化活動では、時代の変化・市場ニーズを踏



まえたりブランディングを実施し、SNS・広報媒体による情報発信の充実を図る。その他、新規生産者確保に向けた取り組みにも積極的に参画する。

議案審議終了後には、遠藤新会長が登壇。「今回、会長という重責を担うことになり、身の引き締まる思いだ」と述べ、自身の経歴やTOKYO Xに対する思いをスライドで説明。浅草で昭和4年から続く精肉店の3代目として、TOKYO Xの焼き豚の販売などを行っているが、家業を継ぐ前は若者向けファッション紙の編集者であったという異色の経歴を紹介。店舗でお客様の前に立ち続けてきた“現場”の経験と、編集者として“価値”を伝える技術を磨く、「現場×編集者」の視点からTOKYO Xをみると、「確実に価値はあるものの、それが価格へとつながっていない」と指摘。「おいしいね」で終わらせず、価値を高め、価格という形で現場に還元することの重要性を訴えた。そして突破するための三つの柱として、「理由を作る」「価値を伝える」「価格を守る」を挙げた。さらに畜産家は誇り高きアスリートであり、スター性のある畜産家を育てることが重要と説明。畜産家の物語こそTOKYO Xの核であるとした。最後にTOKYO Xを東京最強の武器にして、量だけを追わず、価値で選ばれるブランドにしていくために、“チーム”として取り組んでいくことを呼びかけた。